

ハウスミカンにおける天敵製剤スワルスキーカブリダニ成虫の各種農薬に対する感受性					
[要約] スワルスキーカブリダニ成虫に対して、 <u>ハウスミカン</u> で使用される <u>各種薬剤</u> に対する <u>感受性</u> 検 定により、13剤が影響なしに分類される。					
上場営農センター・研究部・畜産果樹研究担当				連絡先	0955-82-1930 uwabaeinouuenta@pref.saga.lg.jp
部会名	上場営農	専門	病害虫	対象	ハウスミカン

[背景・ねらい]

ハウスミカンでは殺ダニ剤抵抗性が発達したミカンハダニが難防除害虫として問題となっており、天敵製剤スワルスキーカブリダニの利用が試みられている。そこで、ハウスミカンで使用される各種農薬に対するスワルスキーカブリダニの感受性を解明し、農薬散布と組み合わせたミカンハダニ防除体系確立の資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 殺ダニ剤ではシエノピラフェン(スターマイトフロアブル)、ピフルブミド(ダニコングフロアブル)、スピロジクフェン(ダニエモンフロアブル)、シフルメトフェン(ダニサラバフロアブル)、BPPS(オマイト水和剤)、スピロメシフェン(ダニゲッターフロアブル)、アセキノシル(カネマイトフロアブル)の計7剤がスワルスキーカブリダニ成虫に対して影響なしに分類される(表1)。
2. 殺虫剤ではピリフルキナゾン(コルト顆粒水和剤)、ジノテフラン(スタークル顆粒水溶剤)、フロニカミド(ウララ 50DF)、アバメクチン(アグリメック水和剤)、プロフェジン(アプロード水和剤)の計5剤がスワルスキーカブリダニ成虫に対して影響なしに分類される(表1)。
3. 殺菌剤ではボスカリド・ピラクロストロピン混合剤(ナリア WDG)1 剤がスワルスキーカブリダニ成虫に対して影響なしに分類される(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 本データは室内試験で得られたものである。
2. 死亡率による影響評価は、補正死虫率(Abbottの補正式)をもとにIOBCによる評価基準(室内試験)で分類した。影響なし：死亡率 <30%、影響小：30-79%、影響中：80-99%、影響大：99%
3. 同じ系統の薬剤間でスワルスキーカブリダニ成虫に対する影響が異なる場合もあるので、影響の大きい薬剤は使用を避ける。

[具体的データ]

表1 スワルスキーカブリダニ成虫の各種薬剤に対する感受性

影響	殺ダニ剤				殺虫剤			
	成分名	系統	製剤名	補正死虫率(%)	成分名	系統	製剤名	補正死虫率(%)
なし	シエノピラフェン	25A	スターマイト	0	ピリフルキナゾン	9B	コルト	5.0
	ピフルプミド	25B	ダニコング	0	ジノテフラン	4A	スタークル	14.0
	スピロジクフェン	23	ダニエモン	11.1	フロニカミド	29	ウララ	19.3
	シフルメトフェン	25A	ダニサラバ	11.1	アバメクテン	6	アグリメック	20.0
	BPPS	12C	オマイト	20.0	ププロフェジン	16	アプロード	20.0
	スピロメシフェン	23	ダニゲッター	20.0				
	アセキノシル	20B	カネマイト	25.9				
小	ピリダベン キノキサリン	21A UN	サンマイト モレスタン	40.0 60.0	アラニカルブ	1A	オリオン	43.8
					シアントラニリプロール	28	エクシレル	44.4
					エチプロール	2B	キラップ	50.0
					イミダクロプリド	4A	アドマイヤー	60.0
					レビメクテン	6	アニキ	60.0
					チアメトキサム	4A	アクタラ	62.5
					シラフルオフェン	3A	MR.ジョーカー	67.9
					アセタミプリド	4A	モスピラン	67.9
					クロチアニジン	4A	ダントツ	75.0
中				フルバリネート	5	マブリック	81.6	
大	ミルベメクテン	6	コロマイト	100	DMTP	1B	スプラサイド	
					PAP	1B	エルサン	
					クロルピリホス	1B	ダーズバン	
					フェンプロパトリン	3A	ロディー	
					スピノサド	5	スピノエース	100
					スピネトラム	5	ディアナ	
					クロルフェナビル	13	コテツ	
					トルフェンピラド	21A	ハチハチ	
					テブフェンピラド	21A	ピラニカ	

影響	殺菌剤			補正死虫率(%)
	成分名	系統	製剤名	
なし	ボスカリド	C2	ナリア	11.1
	ピラクロストロビン	C3		
小	マンゼブ	M	ジマンダイセン	56.5
中	マンネブ	M	エムダイファー	90.0
大				

※ジェネラリストカブリダニの薬剤感受性検定法(成虫, 岸本ら)で試験を行った
 ※各種薬剤を水道水で常用濃度に希釈し, エアブラシを用いた薬剤散布システム(國本ら, 2017)を利用して4mg/cm²散布 (対照区として水を散布)
 ※処理後は恒温器内(25°C16L8D)条件下で飼育し, 2日後の死虫率をもとに補正死虫率(Abbott式)を算出
 ※薬剤は系統順で記載。系統コード: 殺ダニ剤・殺虫剤はIRAC、殺菌剤はFRACを使用
 ※IOBCによる評価基準(室内試験) 影響なし: <30%, 影響小: 30-79%, 影響中: 80-99%, 影響大: 99%≦

[その他]

研究課題名: 土着天敵と天敵製剤 <w 天敵> を用いた果樹の持続的ハダニ防除体系の確立
 予算区分: 国庫
 研究期間: 2016年~2018年
 研究担当者: 川内孝太, 田代暢哉, 松尾洋一